基礎老化研究 46（3）; 49, 2022

【大会見聞録】

第 45 回日本基礎老化学会大会見聞録

加藤　優吾
芝浦工業大学　システム理工学部　生命科学科

2022 年 7 月 27 日 (水) から 28 日 (木) に京都府の京都テルサにて、第 45 回日本基礎老化学会大会が開催されました。コロナ禍以前は一年に数回、学会参加の為京都を訪れていましたが、今回は 2019 年以来約 3 年ぶりの京都でありました。私は修士 2 年生であった 2018 年より本学会に所属しており、これまでにも大会や市民フォーラムには参加しておりましたが、学位を取得してから初めての参加であったため少し緊張しつつ、ボスである福井浩二先生と共に京都に向かいました。

第 45 回大会は京都光華女子大学の細川昌則先生が大会長を務められ、「基礎老化研究と炎症論」というテーマで開催されました。両日ともに既に見慣れた対面とオンラインのハイブリット形式での開催でした。

初日には一般演題と細川先生による教育講演、そして日韓合同シンポジウムが行われました。一般演題はバイオマーカー、細胞老化、筋･心臓のセッションが行われ、教育講演では老化促進モデルマウス（SAM）について、日韓合同シンポジウムでは炎症と疾患に関してのご講演が行われました。この初日の休憩時間に石井恭正先生からお声がけ頂き、本稿の執筆に至りました。新型コロナウイルス感染第 7 波の到来により、残念ながら懇親会はありませんでした。

２日目は SAM 学会学術大会との並行開催であり、日本基礎老化学会大会では一般演題 (酸化ストレス、代謝・寿命、脳・神経のセッション) と京都大学の近藤祥司先生による教育講演、昼食休憩時にはランチョンセミナーも行われました。教育講演は、老化研究のこれまでの流れと今後に関するご講演でした。初日に引き続き２日目の内容も、全てが興味深く、多くのことを学ばせていただきました。特に、私の発表の座長も務めていただいた、京都大学の柿澤昌先生の老化とリアノジン受容体によるカルシウムホメオスタシスの変化に関するご発表は、ちょうど私が勉強し始めていた内容だったこともあり、熱心に勉強させていただきました。私自身は２日目に発表し、３名の先生方からご質問いただきました。今回ご発表されていた他の先生方のスライドや言葉の選択などを参考にし、より明快な発表をできるように努力したいと思いました。次年度以降の日本基礎老化学会大会でも、発表できるよう精進していきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

今回第 7 波が到来していたが、非常に厳重な感染対策の上で、本会は対面とオンラインのハイブリット開催で実現されました。このような非常に大変な状況下で第 45 回日本基礎老化学会大会を開催し成功に導いた、大会長の細川先生をはじめ、すべての関係者の方々にこの場をお借りして深く感謝いたします。

大会の立て看板

会場の様子

連絡先：加藤　優吾
〒 337-8570　埼玉県さいたま市見沼区深作 307
TEL：048-720-6034
E-mail：kato.yugo.y2@shibaura-it.ac.jp